

平成 23 年度 学力向上アクションプラン

唐津市立第一中学校

1. 目標

地域・保護者・生徒から信頼される魅力ある学校をめざす

2. 実践目標

- ① 「立腰教育」を柱とし、毅然とした生徒指導を実践し、生徒の規範意識を高める。
- ② 生徒の承認の場となる教育活動を展開し、自尊感情を高める。
- ③ 魅力ある分かる授業を実践し、基礎・基本をしっかり定着させ、学習意欲を高める。

3. 成果目標

- ① 目的意識を持ち、意欲的に学習に取り組むことができる。
- ② 授業規律を身に着け、集中して学習に取り組むことができる。
- ③ 保護者と連携し、継続的に家庭学習に取り組むことができる。

4. 現状

本年度4月の県学習状況調査の結果は、正答率が2年の数学は県平均に達しているが、それ以外の教科は、県平均を下回った。意識調査の結果では、「学校では落ち着いて勉強することができる」と答えた生徒の割合が、各学年85%以上あり、2・3年は県平均を上回っている。また、県平均に比べ全校的にテレビゲームや携帯ゲームの時間が長く、就寝時間が遅いという結果が示された。

5. 数値目標

- ① 標準学力調査(CRT)において、対全国平均正答率を前年度結果より+3以上にする。
- ② 市基礎学力テストにおいて、3教科とも市平均正答率を上回るようにする。

6. 具体的な取り組み(アクション)

全教科共通の取り組み

・授業の基本的な流れ

- ① チャイムに合わせ立腰指導を行い、授業への集中力を高める。
- ② 授業のめあてを必ず板書(確認)する。
- ③ 授業の見通しを持たせ、見通しにそって解決をさせる。
- ④ 話し合う場、教えあう場、発表する場など活躍する場を設定し、ほめる場面を増やす。

・授業の準備

学習用具、体操服忘れをなくす指導を帰りの会の連絡を含め徹底する。

各教科の取り組み

[国語科] (書く力)

- ・「書く」場面の設定をふやす、相互評価活動導入、条件付き短作文の訓練
(読む力)
- ・接続語に気をつけ段落の関係に注目し読ませる、ワークシートの工夫
(言語事項)
- ・漢字を文の中で練習させる、同音異義語の小テスト実施

[社会科] (表現力・言語活動)

- ・基本用語のドリル確認、難しい用語の解説、話し合い活動、ワークシートの工夫

[数学科] (基礎・基本の定着)

- ・計算問題や用語の反復練習、小テストの実施、テスト問題の工夫
(言語活動の充実)
- ・教え合う場の設定、考え方を発表しあう課題学習の設定

[理科] (思考力・表現力)

- ・実験後考察の時間の充実、計算・記述のドリル演習、視聴覚教材の活用

[英語科] (書くこと、表現力、コミュニケーション能力)

- ・毎日の単語練習、英単テストの実施、音読の充実、Q & Aの活用、
テスト問題の工夫

集団づくりの取り組み

- ・立腰教育を徹底し、環境を整え、学習への構えを育てる。
- ・Q-U検査を活用した学級指導を行う。

家庭生活への取り組み

- ・家庭学習の計画を立てさせる。
- ・時間の有効な使い方を考えさせ、午後11時には就寝するよう呼びかける。
- ・ノーテレビ・ノーゲームデーを月2回実施する。

個別学習の取り組み

- ・長期休業中の学習会を実施する。
- ・放課後学習会を実施する。